

経営情報学会 2013 年秋季全国研究発表大会

大会実行委員会 流通科学大学

2013 年 10 月 26 ～ 27 日、流通科学大学において「ビッグデータの可能性」をテーマにして、秋季全国研究発表大会が開催された。また、大会前日の 25 日にはスーパーコンピュータ「京」の見学会も催された。

10 月 16 日に発生した台風 27 号の接近に伴い、天候が危ぶまれたが、幸い予想進路中央より東側に逸れ参加に支障が出るような悪天候を避けることができ、195 名の参加者を得て、2 日間で 69 の研究発表が行われた。

神戸は 2006 年の神戸商科大学における開催以来となる。2006 年には阪神・淡路大震災から 10 年あまり経過するものの街には傷跡が残っていたが、復興は加速しており、きれいな街になりつつある。

26 日の懇親会は神戸港から明石海峡大橋を巡る「コンチェルト」でのクルーズで海からの神戸をご堪能いただいた。

大会 1 日目は学生ポスターセッション、一般セッション、開会式、基調講演が行われた。大会 2 日目は一般セッション、特別講演が行われた。

1. 学生ポスターセッション

学生ポスターセッションは 22 件あり、開会式で 2 名の学生に学生優秀発表賞が授与された。



学生ポスターセッション

2. 基調講演

基調講演では、情報・システム研究機構 国立情報学研究所 所長／東京大学 教授の喜連川 優氏にご登壇いただき、まさに現在ご研究中のビッグデータ活用についてご講演いただいた。

インターネットのみならず社会にあるセンサから蓄積されるデータは、毎年 1.5 倍程度の量に上っているが、これらのデータを高速に計算するコンピュータ技術も進歩している。ご研究では高速に地理情報を扱うデータベースエンジンを開発され、それを利用して実際に社会に活用されようとしている先進事例をご紹介いただいた。

しかし、パーソナルデータの所有者が誰であるかといった問題など、制度的に解決しないといけない問題があり、きちんとした議論を行って乗り越えていかなければいけないとご教授いただいた。



喜連川 優氏の基調講演

3. 特別講演

特別講演は大会 2 日目の 10 月 27 日に、日本マーケティング学会 会長／流通科学大学 学長の石井淳蔵氏より『ビジネスインサイトープラグマティズムの精神に学ぶ』というタイトルで講演いただいた。

実践することを学ぶ実学について、流通科学大学

での取り組みなどを紹介いただいたほか、事例研究をご披露いただいた。



石井淳蔵氏の特別講演

4. 懇親会

懇親会は、大会1日目の基調講演後に、神戸のクルージングを体験いただいた。台風一過の神戸の夜景と明石海峡大橋を見ることができた。

次回開催校による次期大会のご紹介、また、前大会の各委員長への感謝状の贈呈があった。



コンチェルトでの懇親会

5. 一般発表

本大会では、大会1日目に10テーマ28発表が行われた。本学会での事例研究論文数が減少している問題を考える機会として、春季大会に続き事例研究のセッションが行われたほか、本大会のテーマ『ビッグデータ』セッションが行われた。

大会2日目は11テーマ41発表が行われた。研究部会のISリサーチメソッド研究部会、またJPAISのセッションも開催された。

2日間にわたって行われた2013年秋季全国研究発表大会は盛会となった。学会理事のみなさまをはじめとしてすべての関係者の方々のご協力なしには成し得なかったことを思い、感謝する次第である。